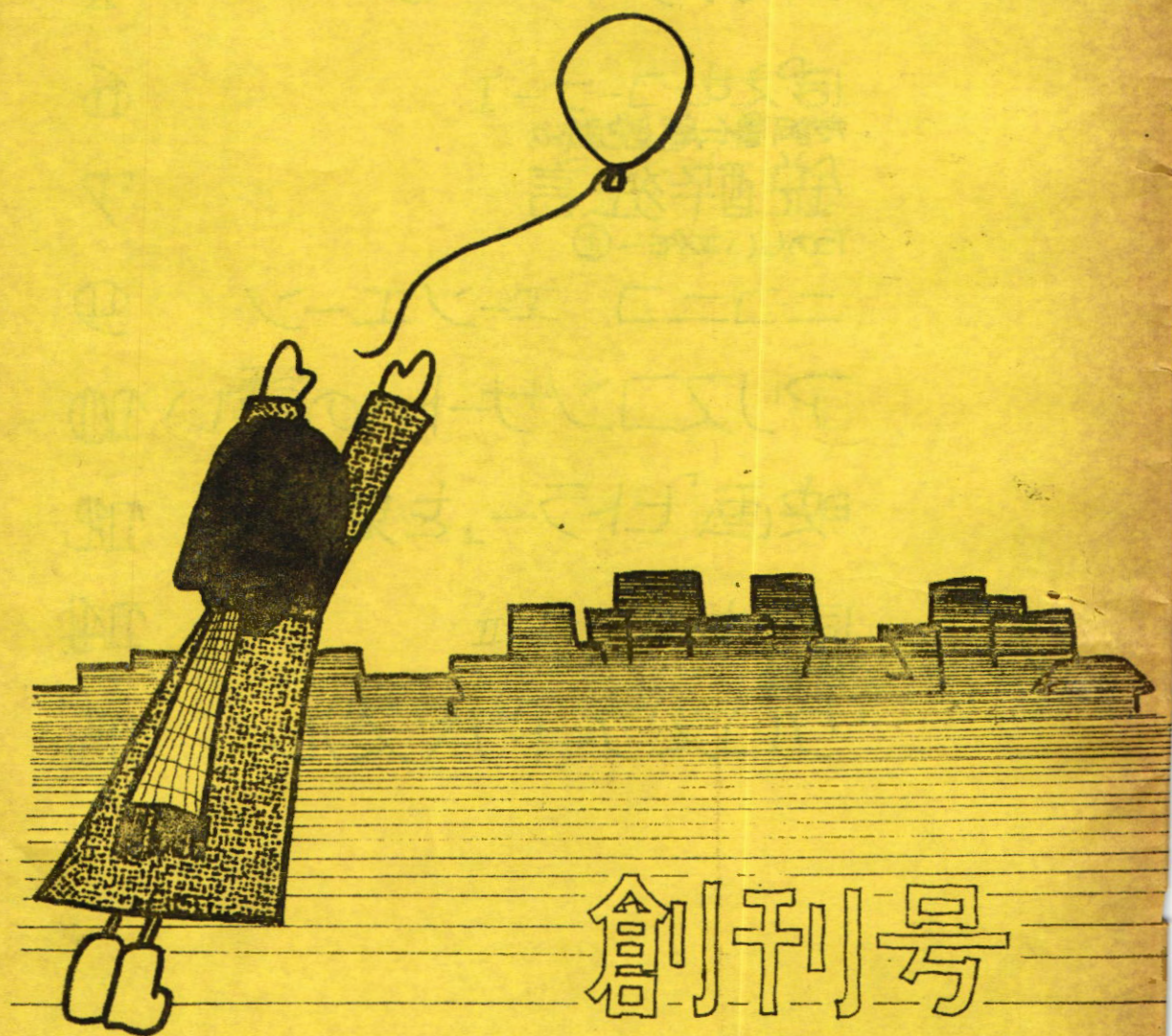


小恒河沙



創刊号

もくじ

- | | |
|-----------------------|----|
| カントウゲン | 1 |
| おまわりさんありがとう | 2 |
| 蟬のメルヘン | 4 |
| ほえむコーナーI 矢野龍仁庵 鋭酔の | 6 |
| 鋭酔独言 たのしいエッセイ① | 7 |
| ニコニコ エーンエーン | 9 |
| アリスコンサートへの誘い | 10 |
| 映画「ヒトラー」を見て | 12 |
| ほえむコーナーII 奇怪 | 14 |
| クロスワードパズル | 15 |

カントウゲン

多色ポケットにつり皮さげて
アスファルトをかけぬけたくて

背中に荷物をだいて
アカネの浅間をかけぬけたくて
そういや 八月十日
浅間は踊り燃えたつ炎で赤かった
いつまでも煙をあげていた

さびれたビルの谷間
少年は飛ぼうとしていた
こわれた桶に銀紙をはりつけ

ン

ある晴れた日曜日、ミンミンとセミがな
さまじく、そのセミは「どこでも上るセミ」
として、その村では知れわたっていた。

その日もセミは、村中まる所で一旦停止しな
がら飛びまわっていた。そして「どこに
も寝る馬」として村中に知れわたっていた。
一匹の年老いた馬とであいました。もちろん馬
は寝ていました。当然、セミは一旦停止しま
した。

へ

「おい、馬さん。あなたはどうしていつも
寝ているのですか」とセミは馬にいいました。

「そういうセミさんね、どうしていつも一
旦停止するのですか」と馬がセミに問いまし
た。

ル

「わかりません」とセミは馬にいいました。
「そうですか。実は先週、私は隣の村に行



蟬

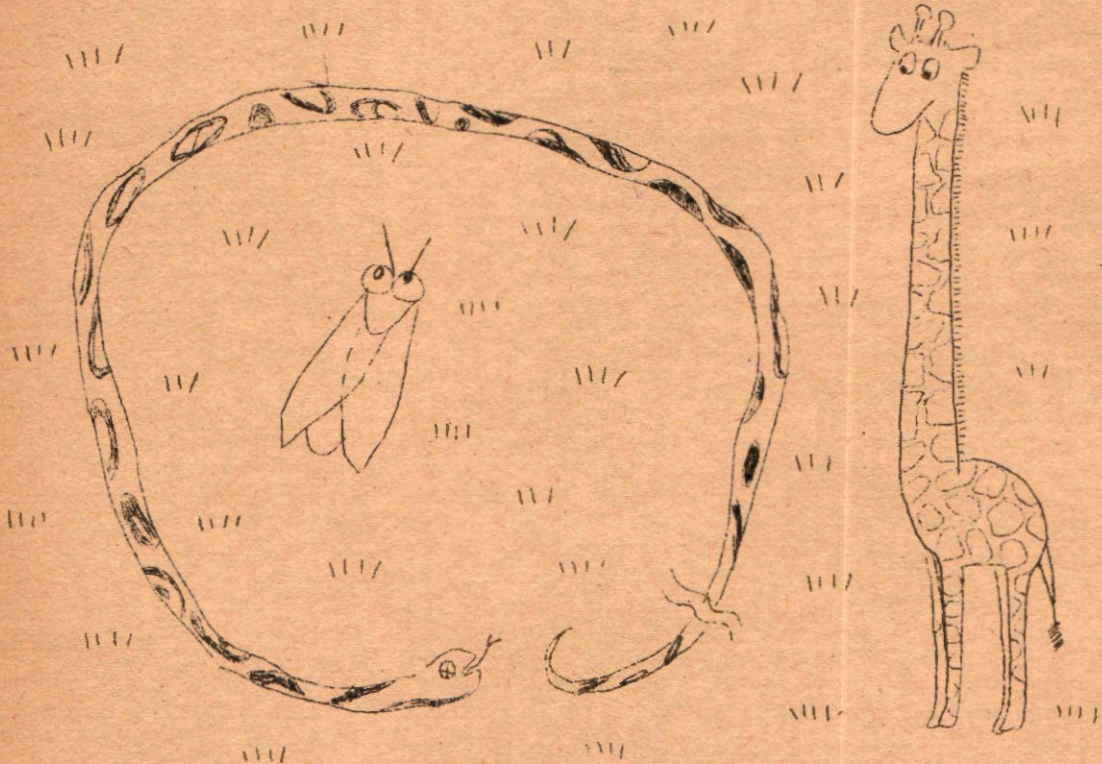
の

メ

ってきました。そこで私はどこでも首ののびるキリンに会いまして。私は彼に尋ねたんですよ。『どうして、あなたはどこでも首ののびるのですか。』すると彼はいいました。『わかりません』と。その日、私はその村でどこでも皇ののびる象に『いつもネ不足のウサギに『いつももの生えているたぬき』』『いつも長いへびに』』『いつも黒いカラス』達に会いまして。すると彼は皇に『同じ』に答えました。『わかりません』と。

そして、最後に私はその村で『いつもツートニカラーのパンダ』に会いまして。彼はその村の長老でした。で、私は彼に同じ質問をしました。その時、彼はいいました。

『いいかげんに、こんな夕文はやめなさい。』



微睡の中で抽象に身を踊らせる

大都会の夜を支配する高層ビル
寸分の余地なく立ち並ぶ家に
霧にまつまられたハイウェイを

まかりくねった未知の山道に
幾重にも重なる雲をつき破る

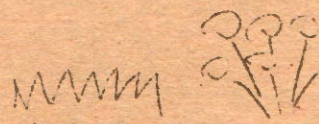
妙に温かくなつてくる
眼下に広がる羊歯類の大草原

かなたに無数の
水晶のモニュメント

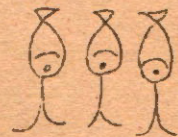
空と海が一つにけあつていく
創造の風が大地に吹き荒れる
海岸線におし寄せらるる古代魚の群れ

夢がとぎれ

変りばえのしなない街並みが
窓に貼りついている



(6)



まかろにあんえいす
摩訶魯仁庵 銳酔の

銳酔独言

かつて近くの図書館で、日本に初めて写真機という
ものが入ってきた頃の、恐らく現存する写真としては
最も古いものに属するだろう写真をあつめた写真集を
みたことがある。被写体は当時の下納武士、町人、遊
女等ごく一般の無名の人々だった。写真という西改
的、現代的な技術によってジョンマゲが写されている
ということにチヌハクな感じをうけながらページを繰
るうちに、どの写真からも一様に感じ取れる一種異様
な雰囲気気付いた。それはどこから発しているかと
いうと、彼らの目、眼光からなのである。或いはそこ
を中心とした表情、体全体といつてもいい。どんなま
ついで目をしてる現代人でも発することは出来ないと思
われる鋭い眼光。見たこともない写真機に回って、し
かも当時の写真に写ると魂がすいとられるという噂に

におのきながらの撮影とはいえ、ただその恐怖だけ
ではあんな目にはならないだろう。ああいう目は現代
人にはどう頑張っても出来ない。単に「きらい」とい
うだけでなく、なんというか、そこに「時代」
といつものがまざまざと投影されているのだ。今より
も生産力はすつと低く、さらに下層階級の人々にとつ
ては身分制による今では考えられないほどの閉塞的な
状況の中で、封建制の矛盾が至るところでふさだし、
行く末知れぬ不安につつまれていた時代だったのだら
う。そういう時代があつた眼光を生み出したのだ。
では、ああいう目の出来ぬわれわれの時代はどうだ
ろう。物質的にはある程度向上し、特になれわれの世
代は競争のようになつてしまつてもない極限状況を時代と
して体験したこともなく、あの写真の時代に比べれば、
言葉は美しかもしれぬが、いわば「ふやけた」時代な
のではないだろうか。しがし社会に目を向けてみれば、
不況や、こりや危ねえ、なと感ず政治反動があり、さ

うに食糧危機やエネルギー危機が叫ばれ、物質的にすらこのまま良い方向にすすむとは思われないという不安につつまれて明るく見望などとも持てないという時代でもある。ただ日常的な生活実感としては、常に学生などという身分にあつては「ふやけた」時代という方があつたといふようだ。

今という時代は、われわれがいくらのりこ之ようとしてみてもそれを返してしまふような、われわれの前に立ちただかような価値感を与えてはくれない。何をしても、一般的道徳に抵触しない限り、それはその人の価値感にもとづく自由な行動として、批判も、また尊敬もなく他の人の関心の外におかれてしまう。人間の精神は、その生まれた時代の時代精神を担い、それと対決する過程で、結果的に超えることが出来るにせよ出来なかにせよ鍛之上げられていくものだ。ところが今という時代はそんなものは与えてくれない、いきなり肩すかしをくらわすために、われわれは何とも言

えめやりきれなさを感じながら日常性の中にどつぶりつかりこみ、「ふやけて」いつてしまふ。現代の若者の低年齢化がうんぬんされるが、その原因はこのあたりにありそうだ。「やさしさの世代」とうまいことを言うが、それは言つてしまふはいつまでたつてもガキであり続ける情ない世代ということの言い換えにすぎないのでないだろうか。そして一方では「社会の管理化、物質の大量消費が進み、われわれは「やさしさ」をいだいてある種の諦念の中で、成いはどんな諦念すら感じないまま」シラケていく。無気力、無関心、無感動。これが今の時代精神だよ、と言つてしまふはそれまでのことだが、しかし何とも言えぬシラケの中でも、とつは言い切らせない何かを感じることもある。腹の底から怒ることもあり、喜ぶこともある。それが何かの形に発展しないことが多いが、結局そこから出発するしがないうだ。担いかつ対決すべきものを自分で作り、自分自身で自分なりの価値感を作り上

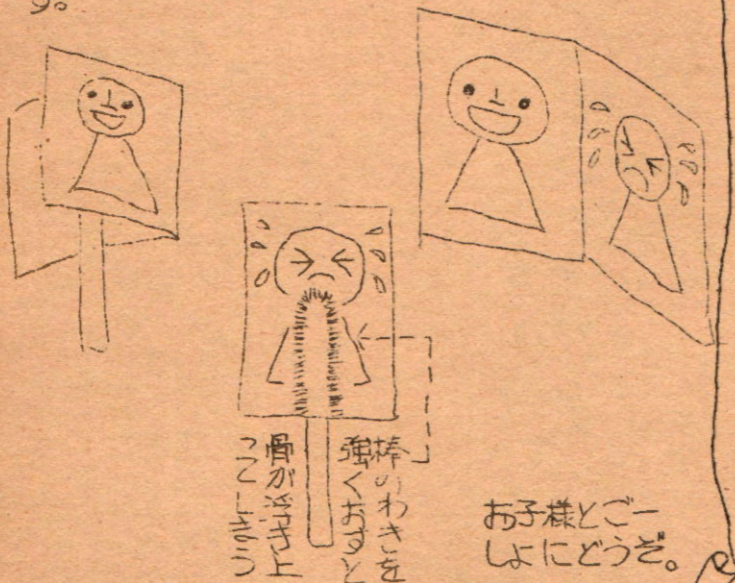
—たのしい工作— ①

『ニコニコエーンエーン』

名刺の2倍ぐらいの画用紙とマッチ棒1本をご用意ください。紙を二つ折りにして、一面にニコニコした坊やを、他の面には泣いている坊やをかきマッチ棒を間にはさんではり合わせます。このとき、マッチ棒の上をかるくおさえ、棒がよくはりつくようにして下さい。ただし棒の形がハッキリ浮き上がってしまうと、骨が折れたみたいになりますから、棒のわきを強くおさないようにして下さい。

指さきでつまんで、クルリ、クルリとまわすと「いま泣いた子供がもう笑った。」

「いま笑った子供がもう泣いた。」とあざむきます。



げていくのだ。それには、やはり何かやってみなければダメだろう。炬燵に入ってテレビをみていても何も出てこない。大堂入試のように周囲から与えられた壁を設定することが大切なのではない。何で

もいから自分で何かやってみて、そこから自分自身で何らかのものをつかみとることだ。しんどいかもしれないが、これしかないと思う。

アリスのコンサートへの誘い

國分裕之

アリスは昨年2回近いコンサートをやったこともある
コンサート活動をその命とするケルレアです。最近では
TVでもあの三人三様の異様の姿を見ることができ
ますが、あの異様はすばらしい三人衆はほでそれもでき
るだけ間近かで見える価値があると、思います。

僕は去年の五月に「コンサート」に行、た時は、何と最後
列、券を買う時には、一階席だからと言うので買、たの
でいたが、いざ会場に入、てみると直線距離では二階席
の方が近いとい、た状態でした。ステージから遠い、と歌
手の姿がハッキリとわかんないへアリスは場合はこれ
が幸いする時もありますか、等の理由で誰のコンサート
であ、てもダメなものです、アリスのコンサートの場
合にはもう一つ大きな理由があるのです。それはあの有
名な谷村氏の顔に原因があるのですが、実際コンサート

会場の後方から見ると異様に頭が光り、ステージの上に
裸電球があるとき、に感じます。冗談で谷村サンのこと
をハゲ、電球とか言いますが、あの時は実際にそれがピツ
タリ当てはまる状態、で本当におかしくなりました。

ましてあの時のアリスの服装はスーツで、黒いスーッ
とき、彼の彼はソリットにはまった裸電球一つという感
じでした。話は変わりますがアリスのコンサートの魅力
は観客の割合以上が女性であるということ、です。三年間
男子校として浪人生活と禁オナは話を強いられていた
私にとってはいよいよ目の保養になりました。非常に不純な
理由ではありますが、一生に一度位サの子に囲まれない
というには、是非行ってみる価値があると思われます。
しかし当然ながらアリスのコンサートへ多くの人がをし
てこの僅か足と違ふのはこれだけのためへ女の子が女の

子を見ろたわに行くとは考えられないし、考えれば少々おそろしいではなく、やはりアリスにそれだけの魅力があるからだと思います。このアリスの魅力は何か。これを考えるだけで相当のページ数を使うので、僕の場合についてだけ簡単に書きます。

僕の場合は、アリスが好きだから好きというのが奥感ですが、強いて言えばまず谷村氏の声、親近感を覚える三人の容姿、楽しいステーション作り等いろいろ外的要素もあります。

しかし僕は多くの方が思うようにアリスの内面的要素に魅力を感じています。直接接したこともなく、本当の姿は知らないのですが、三人三様の人間性に惚れています。谷村氏について少しでも彼の人間性に触れてみたいと思いまうたらエッセイ集「嗚っ、何心へ」などに目を通したらいかがでしょうか。また僕が非常に感銘をうけているのはアリスの歌の詩です。彼らの歌の詩は単純だという意見もありますが、主に恋を唄

た詩は単純であつても心に何か共感を与えるものだと思います。もし皆さんが恋に悩んだり、失恋などしましたらアリスの集語集をみてみたらいかがでしょうか。きっと何か共感を抱くことと思います。最近のアリスの曲はヒット曲用の面が強いと思われしますが、本当のアリスの姿を知るためにはLPの中のかくれた曲を是非聞いていただきたいと思えます。手始めとしてはアリスV・IIあたりのヒット曲でないものなどがおすすめです。思います。

最後にアリスのコンサート風景について一言、向う、向う、左からラベイヤン・キンちゃん、チンペイさんと言った配置が一般的で、衣裳工夫がこうされ、最近チンペイさんはアポロモップおでこ隠しが多くなつてきています。がいてバツリの音が大きく、それに輪をかけて歌声が大きいのが特徴（ベイヤンはへたをする）聞きにくい時もあります。途中で一回皆で歌う曲が必ず入ります。今春を買ったための整理券をもらうための話もあります。今春を買ったための整理券をもらうために長い列がでける程人気がありますが、もし券が手に入りそうでしたら（まず僕に一枚譲って二緒に分けてませんか。

映画「ヒトラー」を見て

黒川博

先日、友人と二人で銀座へ映画ヒトラーを見に行つて

来た。新聞や雑誌の映画紹介欄ではかなり高い評価が与られてゐる映画だった。僕は前々からヒトラーには興味を感じてゐた。従つて彼について知りたいことがたくさんあつたが、その点この映画はかなりの程度僕を満足させてくれるものだ。たと思つた。

一般的に人々がヒトラーに対し抱くイメージは極めて悪いようだ。狂人、残虐、世界を破滅に追い込もうといふ。二十世紀最大の悪魔等々、並べたてればきりかない。しかし待てほしい、そんなひどい奴かどうして大多数の国民の心を、かりとつかみ、世界を動かす力を發揮できたのか。ヒトラーの政權奪取の過程を見ると、初期のミュンヘン検を除いては、すべて合法的に為されてゐる。この映画は、こういう疑問をかなりの程度

解明してくれた。

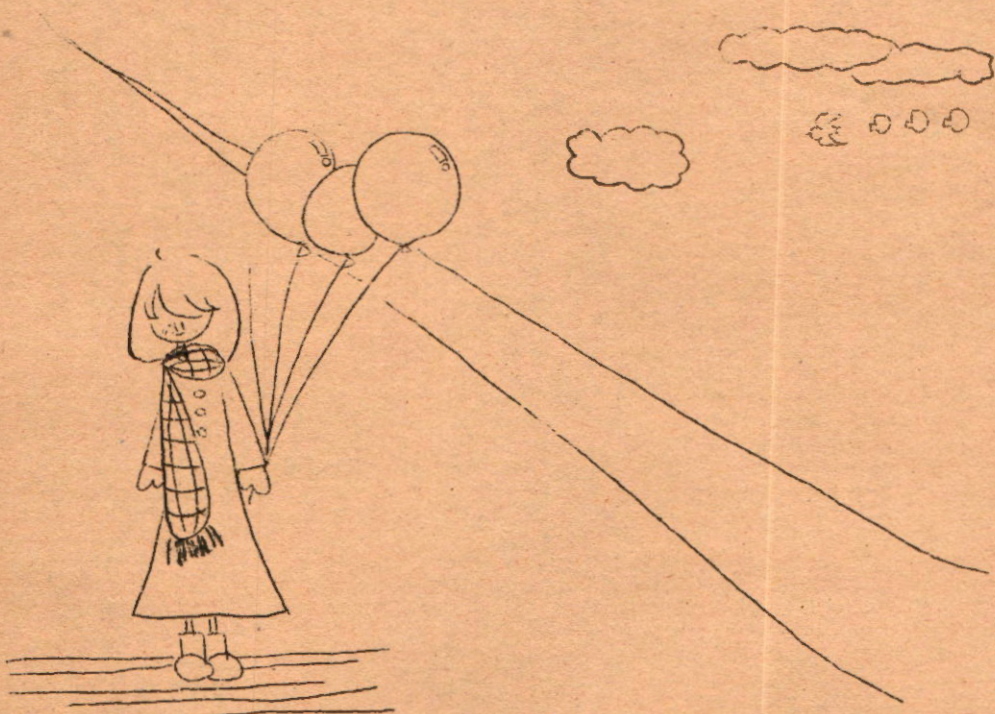
ヒトラー及び彼の率いるナチス党が政權を握るに至つた理由は種々あるだろうが、中でもその宣伝活動の巧みさには驚かされる。例えばヒトラーの演説を例にと、てみよう。それは、恐ろしいまでに精巧に計算され、練り上げられた一つの芸術である。日本にはあまり演説上手な政治家がいないので、ちよつと想像しにくいかも知れない。演説を初めるタイミングは計算されつくされてゐる。低いテノールで穏やかに語り初め、やがて身振り手振りが激しくなり、最後は絶叫調で終める。聴衆は一種独特な魔力のような魅力に酔ひ、理性を失なつてゆく。若い娘達が涙を流し、総統の握手を求めて殺到してゆく。その光景は、外人ロクワグループに熱狂する昨今の女子中学生や女子高校生を想ひ起こさせる。ナチスの党大会に

おいても、劇的効果が十分に考慮されていて、人々はそ
の雰囲気を楽しんでしまっているのである。

ここで僕が考えたことは、政治家がタレント的資質を
備えるようになると、非常にこわいということである。
つまり、人々が政治家の政治理念や、政治手腕を冷静に
判断するのではなく、理性を飛び越えて、政治家と共鳴す
るようになること、恐ろしい事態になるということである。

翻って日本の政治家を見渡すとどういうことになるか。
老人シミだらけの顔をした、明治三十八歳の青年や、ア
ーとかうーとかい言わぬ人が首相をやっている。こ
ういう人達に少女達が熱を上げるといふことはまずない
だろう。彼らには理性を越えて、人々に共感を呼びおこ
すような力はないだろう。そういう人が政治を牛耳って
いる日本は更に平和で安泰な国なのである。

西船の黒川が今回は少シリアスに迫って見ました。



ペン先が割れ 錆びたインクが広がる
食い足りない言葉が並んだ紙の山
丸味を求めてジレシマばかりうず高く重なる

いらだちの被害をうけるのはいつもペン先

何を求めているのか自分にもわからぬ
ペン軸一本でこわれそうな地球を支えようと

試みた時もあった

でも今は……

ただ紙の山が高くなる

奇怪クロスワードパズル

| | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | | | | | 10 | 11 | |
| 12 | | | 13 | | 14 | | |
| 15 | | | | 16 | | | 17 |
| | | 18 | 19 | | 20 | | |
| 21 | 22 | | | 23 | | 24 | 25 |
| | 26 | | | | | | 27 |
| 28 | | | | | | 29 | |
| 30 | | | 31 | 32 | | 33 | 34 |
| | | 35 | | | | | |

タテのカギ

- 1 ヘソまがり
- 2 二重といてもできます
- 3 秋の味覚
- 4 シェークスピア悲劇のヒーロー
- 5 日の出
- 6 衝動買い
- 7 山谷
- 8 犬
- 11 死んだ母親に……
- 14 業務上の垂れ
- 17 ○○○○○○○○モハネについて
- 19 自殺にも使えます。
- 22 シシリー出身
- 23 運賃値上げ○○
- 25 きけわだつみの声
- 28 哲学
- 32 なくてはならないもの
- 33 みどり

ヨコのカギ

- 1 時刻に逆行
- 7 二束
- 9 ながぼ……
- 10 練馬
- 12 横組輪島
- 13 ナリハナバタケニ……
- 15 たいていノドモみず
- 16 フォール直前
- 18 失敗
- 20 ヨーロッパの一国
- 21 ホテイツウ
- 24 「あ○○○あ断つり」
- 26 帳簿外の資産増
- 27 ミミズのソ
- 28 ホトケ様
- 29 雪のROCK
- 30 中心
- 31 理Ⅱ
- 34 カラス
- 35 野菜の○○○○○○○○○

(解答は次号に掲載)

集募稿原

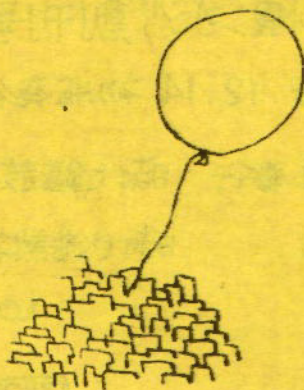
「恒河沙」では広く原稿を募集しています。何か言いたいこと、書きたいことのある人は編集委員の方までどしどしお寄せ下さい。

原稿くわ~~~~~?

なお、お返すきの点、御批判もお寄せ下さい。

編集後記

どうにかこうにか、「恒河沙」オ一号を出すことができた。原稿をしめ切ってからおよそ22時間ぶっ通しで割りつけ、ガリ切りをやり、ようやく今こゝまで書くところまでできた。普通の編集後記というものは編集の苦勞とか今後の展望などを雜感風にまとめたものなのだろうが、なにせ、これからまだ印刷という修羅場が控えているので正直なところそんな後記は書けそうにもない。實際のところ、齊果の何らかの展望を拝んでいるわけでもなくこれからいろいろ考えてやって行くつもりである。なおクロスワードパズルは延々3時間もかけて作ったオリジナルです。かなりいやらしく作っていますが、ゆっくりとおたのしみ下さい。では、また。(M)



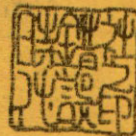
檀河沙創刊号

1978.12.14 初版発行

編集発行 時代錯誤社

印刷 時代錯誤社印刷部

100円



なまものですので お早目にお読み下さい。